

宝満山経塚2	10
承暦三年銘経筒（香椎宮）	9
九州地方発見紀年銘ある経塚年表	9
経塚研究主要参考文献	8
中国輸入陶器各種	7
石製経筒	7
陶製経筒・瓦経	7
水瓶山経塚2・3	6
水瓶山経塚1	5
筑前・太宰府町 経塚・仏像	5
宝満山経塚1	4
武蔵寺経塚3・4	4
武蔵寺経塚1・2	3
北部九州の経塚	2
経塚概説	1

太宰府の経塚

資料目録

大宰府アカデミー・令和編 第2期

第6講 スケジュール



令和8年9月16日（水） 会場：日本経済大学 福岡キャンパス4階 大講義室

※通常開催と時間内容が変更になっておりますのでご確認ください。

13:30	開会・講義(前半)
	「太宰府の経塚」 大宰府アカデミー・令和編 顧問・福岡大学 名誉教授 小田 富士雄（おだ ふじお）氏
14:30	休憩①
	※10分程度の休憩を予定いたしております
14:40	講義(後半)
15:10	講義終了・休憩②
	※5分程度の休憩を予定いたしております
15:15	今日のポイント
	先生と事務局・重松敏彦が質問を交えながら、本日の講義を振り返ります
15:30	閉会 終了予定

開催にあたって

- ◎ 受講者証を必ずご持参ください。
- ◎ ご来場の際は、駐車場がございませんので公共交通機関をご利用ください。
- ◎ 会場となるKOROKAN(大講義室含む)について、フタのできる(密閉できる)容器に入った飲み物に限り飲むことは可能です。ただし持参したペットボトル等の空容器は、必ず各自でお持ち帰りください。
食事(菓子類等を含む)はできません。
- ◎ 大学構内すべて禁煙です。
- ◎ 講演中の写真・ビデオ撮影・録音は禁止いたします。
- ◎ 講演会場での携帯電話、スマートフォン等での通話は禁止させていただきます。
会場内では電源をお切りいただくか、マナーモードに設定してください。
- ◎ 講師、または他の受講者の迷惑となるような行為(講演中の私語など)をされた場合は退場をお願いする場合がございますので、ご注意ください。

「太宰府の経塚」 小田富士雄

経塚概説

経塚の意味

経塚とは佛教教典を書写供養したのち土中に埋納した遺跡をいう。多くは小さな土盛り塚をなし、その上に石塔・石碑を建てる場合もある。神社・寺院の境内、小高い丘の上、山頂や山腹などに営造されている。

内部には經典を納めた容器——多くは銅製経筒の場合が多い——を埋納するが、これをさらに陶製などの外容器に収めている場合もある。また銅鏡・合子・刀子・錢貨などのほか、まれには佛像・佛具などの副納品を伴う場合がある。これらの埋納品を収めた塚の内部は素掘穴または小石室を設けて、木炭などで空隙を填めて防湿剤にあてると保存への配慮がなされている場合も少なくない。

埋納経の種類は墨書紙本経巻が多いが、極上品として紺紙金泥経もみられる。また銅板経・瓦経・滑石経・青石経・一字一石経・貝殻経などの特殊なものも発見されている。

経塚の発生

經典を書写して地下に埋納する思想的拠所は主として末法思想の高揚に求められる。釈迦如来が入滅してより、その教法は正法——像法——末法と移ってゆき、ついには教法が全く行われない末世にいたるという思想である。入滅後一千年（五百年説もある）間は教・行・証がそなわっている正法の時代で、修業によって証果が得られる。つづく像法一千年は修業しても証果が得られない時代である。さらに末法到来

どの時代にも通じて願文に盛りこまれるものの、中世以降は少なくなる。

3、縁者（や自身）の追善供養（や逆修供養）を目的とするもので、初期の経塚にはほとんどみられず、中世以降に流行した。

経塚営造の手続き

経塚の営造が実現するまでには、その内容によって複数の人たちによる仕事の分担がなされている。経筒などの銘文から願主（發起人）、勧進（勧誘者）、檀越・施主（主な出資者）、結縁（賛同者・協力者）、写経衆（經典を書写する人）などのほか、金属製経筒の製作にあたった鑄（物）師・銅細工・大工・執筆・彫手などで構成されていた。写経から経筒の製作が完成して経塚に埋納するにあたっては願主をはじめとする関係者あい集い、盛大な供養業が行われた。

経塚の終末

中世以降の埋経思想の変質は新しい納経形態を生み出すこととなった。室町時代に登場した「回国納経」の風はその代表である。「聖」と称する遊行僧が日本六十六か国を巡歴して一国一部の法華経を納経するものである。現存する経筒では永正年代に始まり大永・天文など十六世紀の紀年銘をもつものが多い。その銘文には「奉納大乘妙典十六部内一部」や、法華経の守御神である「十羅刹女」・「三十番神」などが刻まれて定形化し、近世にまで及んでいる。そして奉納形式も地中埋納のほかに経塔を造立して納めた場合もみられる。

一方、礫石に経文を書きつけたいわゆる「一字一石経」塚（礫石経塚）も中世に始まっているが、その全盛期は江戸時代にある。このような礫石経は一石に一字または数字を書写した経石をまとめて埋納し

すると釈迦の教法は全く衰退してしまう時代となる。このうち釈尊入滅より五十六億七千万年がすぎると、弥勒菩薩が第二の釈迦としての世に再生（弥勒下生）して、竜華樹の下で三度にわたって法を説き、衆生を済度する（慈尊出世三會説法）と『弥勒下生経』に説かれている。その時に際して「此所奉」埋之経巻自然涌出令會衆成隨喜矣」とするところに埋経行為の本来的意義があった。

わが国では平安時代に入るとこの末法思想が流行し、天長十年（八三三）には慈覚大師が法華経（如法経）を書写しているが（元亨）、その後長元四年（一〇三一）に書かれた「如法堂簡記」（契訖）に、これを銅筒に収めて埋納し慈尊出世を待つことが大師の本願であったと記されていて、これが比叡山横川の経塚にあたることはよく知られている。

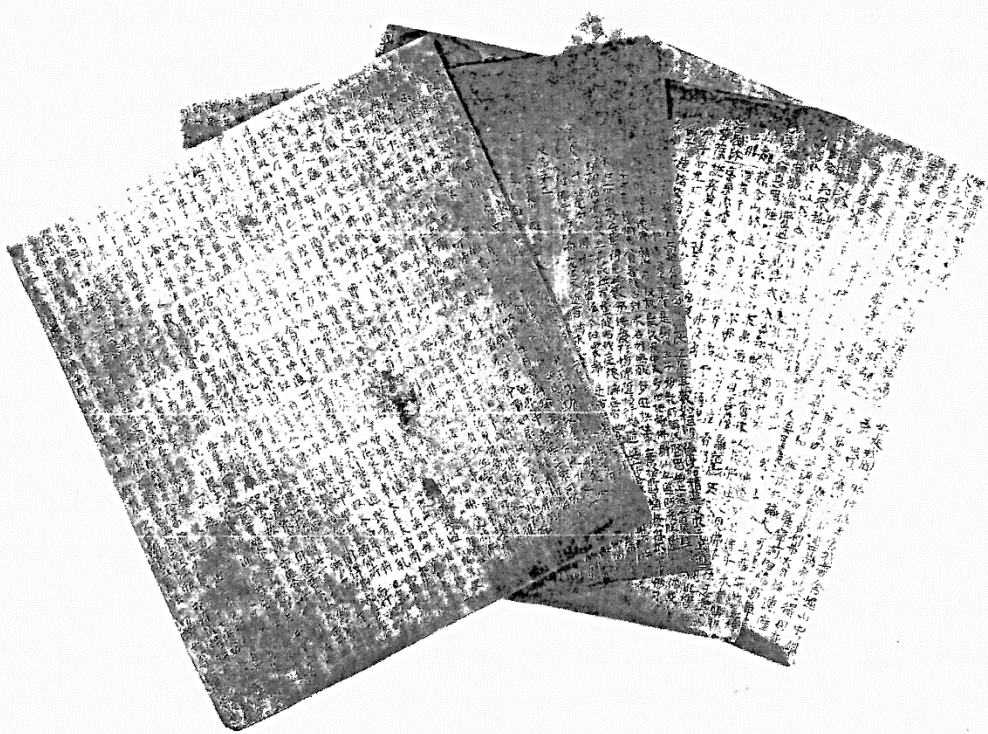
現存する経塚遺物では、寛弘四年（一〇〇七）八月、関白藤原道長が写経埋納した奈良県吉野郡の金峯山経塚が最古の位置を占めている。以来十一世紀後半から十二世紀代には、時の世情不隠とともに貴族や民衆の間にも末法到来の危機感がふかまり、埋経行為は広く流行するようになった。

埋経の目的

経塚の営造は末法到来の世に經典をのこすという第一義に発していたが、それもごく初期の頃であって、時代が降るにつれて功利的な目的が加わってくるようになった。埋経の目的は現存する願文によってつぎの三つに大別されている。

1、弥勒出世を待ち埋経を役立てようとするもので、初期の経塚に流行したが中世以降にはこの思想はほとんど衰退してしまった。

2、極楽往生・出離解脱・証菩提・現世幸福・自他利益を願うもので、たもので、その上に石碑を立てた遺例は現在なお各地に多い。これは手近かな材料で大衆参加が可能であるところから、近世の庶民階層に広く流行したことは江戸文化の一面をも如実に示しているといえるであろう。



銅板経（福岡県求菩提山）

北部九州の経塚

埋経の流行

わが国の経塚分布上からみて北部九州は一中心地域をなしている。今日知られている九州最古の紀年銘ある経塚例は治暦二年（一〇六六）の佐賀県岩倉山経塚である。わが国最古の経塚として知られる奈良県金峯山経塚（寛弘四年＝一〇〇七）より約半世紀後出する。十一世紀中頃には北部九州でも埋経の風が始まったことが知られるが、その流行期は十二世紀前半代にあったようである。これまで発見されている紀年明らかな経塚資料は約百四〇例に達しており、これらを十年ごとに集計してみると左表のように一一一―一五〇年の四〇年間に埋経の風は頂点に達したことがうかがわれる。紀年不詳の経塚はさらに多いところであるが、ほぼ同様な傾向を示すものであったと考えられよう。これら経塚は福岡県に最も多く、なかでも太宰府の背後にある四王寺山とその周辺への集中度は注目される。経塚の営造に大宰府の

西暦年次	経塚数	県別分布
1061～1070	1	佐賀 1
1071～1080	2	福岡 1 長崎 1
1081～1090	4	福岡 2 大分 1
1091～1100	5	福岡 4 佐賀 1
1101～1110	11	福岡 7 大分 3
1111～1120	27	福岡 21 大分 3 鹿児島 1 大宮崎 1
1121～1130	19	福岡 16 大分 2 佐賀 1
1131～1140	12	福岡 8 大分 4
1141～1150	24	福岡 11 大分 4 熊本 2 佐賀 7
1151～1160	6	福岡 6
1161～1170	0	
1171～1180	1	宮崎 1
1181～1190	0	
1191～1200	3	福岡 1 長崎 1 大分 1
合計	115	福岡 77 佐賀 12 大分 18 熊本 3 宮崎 2 鹿児島 1 長崎 2

平安時代の紀年銘ある経塚分布表

が著名である。同心円を重ねるように外側の大円弧から内側の小円弧の順に法華経を刻んでゆく。そして中心の空洞部に小塔を納めており、その底に「王平三」と刻んでいた。王平＝壬平＝仁平と同義で仁平三年（一一五三）と考えられる。瓦経の一変型であろう。

銅板経は縦二センチ、横一八―一九センチ、厚さ二ミリほどの铸造銅板に三〇行前後の罫線をひき、さらに横線で上下二段に区分する。各段一行一七字詰が普通である。現存するものでは三十三枚構成の豊前市求菩提山（康治元年＝一一四二）、三十七枚構成の豊後高田市長安寺（保延七年＝一一四一）がある。このほか記録では英彦山にも久安元年（一一四五）に銅板経が奉納されている。

一字一石経は平安時代末期に流行した小塔三〇万基供養のような数が多いことを功德多しと尊んだ信仰の垂流である。費用の軽減と、一人一字一石として七万二千余人を結縁させることができるという思想に基づいている。中世末から近世に流行し、末法思想ではなく、ただ経文の文字をすべて書写して埋納すれば功成れりという考え方である。

山岳信仰と経塚

わが国には古来自然発生的な山岳信仰（原始神道）がある。その原始的性格は陰陽道や仏教などの外来思想が導入されてからも、それらと融合しながら、とくに洞穴などを形成しやすい条件の神体山（浅間式霊山）は、山中に起臥して修業する仏徒（山臥）の道場に適している。平安時代ごろから仏教との習合をすすめて原始修験信仰を生み出した。すなわち山頂に降臨する神は、末法思想の弥勒下生と重ねられて、山頂の聖地やそれをめぐる周辺に経塚が営造されることとなった。豊前市求菩提山、田川郡添田町英彦山などでは近年の調査によって経塚の発見があいついでいる。ここでは地中納経のほかに岩窟納経など

官人貴族層のかかわりが大きかったことを示唆するものであろう。しかし一二世紀も中頃を過ぎると急速に衰退してゆき、中世以降の発見例はきわめて少ない。末法思想から縁者中心の供養業へと推移してゆく思想的背景に根ざすものであろう。かわって石造塔碑の造立が流行するようになった。

埋経の形態

経塚の発見は開拓などによる偶然の発見が多いため、その構造形態が正確に記録されるような学術調査を経た場合はきわめて稀である。いくつかの調査例によれば、地山を素掘りして経筒を納め、上部に石塊を積む簡単なものから、石組の小石室を設けて納めるもの、さらに経筒を陶製の外筒に納めたり、大甕を倒置して被せるなどの丁寧な方法のものまである。また除湿のために空間を木炭で満たす場合もみられる。

経筒に納められる写経の形態には紙本経・瓦経・滑石経・銅板経・一字一石経などがある。このうち滑石経・銅板経などは九州独特の形態として注目されるところである。

紙本経は最も普遍的な写経である。八巻から十巻（法華経八巻と開卷＝観普賢経・結卷＝無量義経の二巻）、または八巻分をまとめて一巻とした墨書経巻である。

瓦経は縦二四センチ前後、横はややせまい縦長粘土板に罫線をひき経文を刻む。一般に一行十七字詰で一枚一〇、一二、一五行である。福岡市飯盛山経塚、愛宕山経塚、太宰府市日吉神社経塚が知られている。

滑石経は瓦経に似ているが、湾曲した滑石板を使用する特異例である。近世に発見された筑後市若菜八幡宮背後の丘から発見されたもの

の特殊な形態も生み出している。

九州型経筒

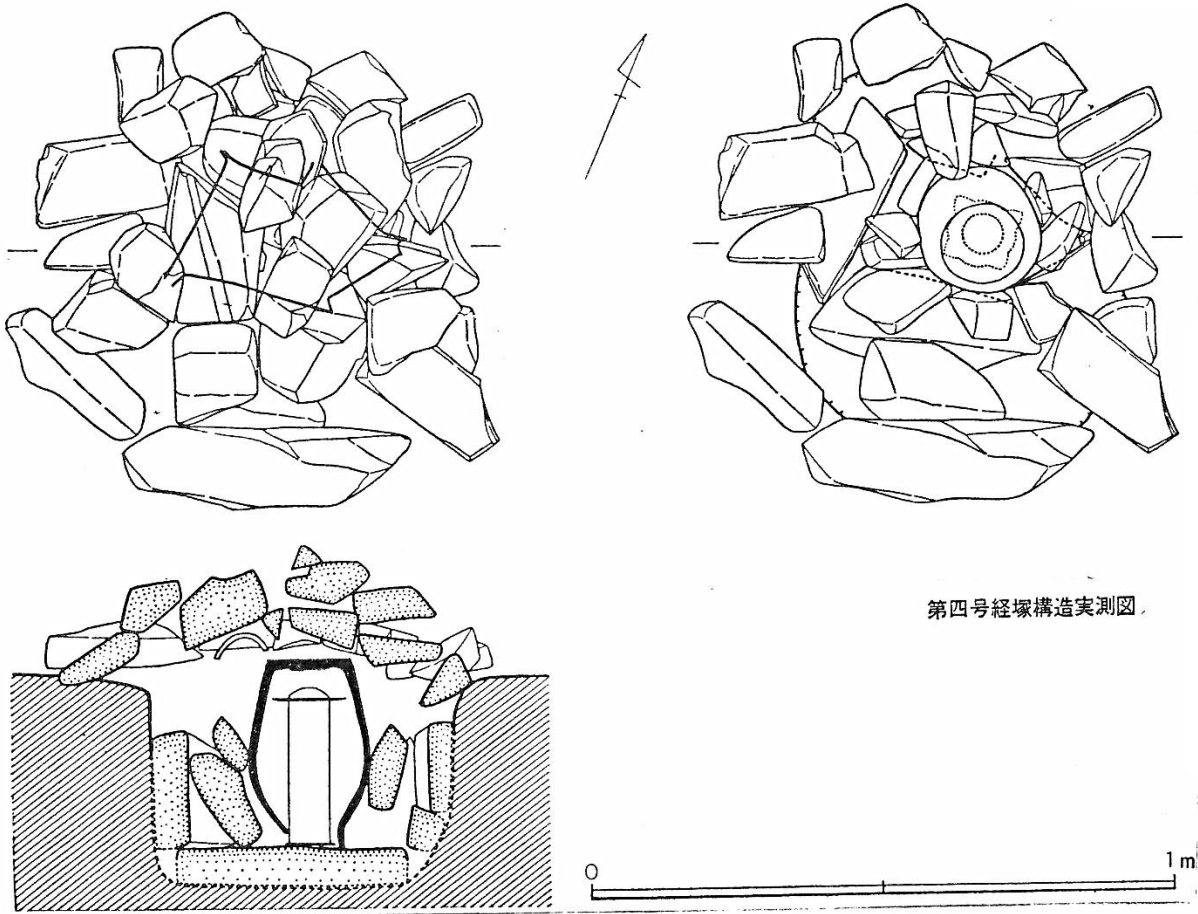
北部九州における埋経の流行は他地域にみられない特殊な経筒型式を編み出すこととなった。それは一部山陰や山陽地方にまで及ぶものの、ほとんど九州に集中していて九州型経筒と称してもよいものである。

その一は鑄銅製積上式経筒である。相輪付蓋、輪積式筒身（四段が多く三段・二段もある）、二段式台座に分解できるもので、明らかに塔の形態に起源する。法華経中の「見宝塔品第十一」にみる地中より釈迦の全身を収めた七宝塔が涌出して妙法蓮華経を大衆に説法すべしとの声あり、四衆皆法喜を得たという趣旨を承けたものであろう。

その二は陶製経筒である。筒状身と円板形または塔形つまみをもつ被せ蓋の組合わせで、表面にうすい黄褐―黄緑釉をかけている。日宋貿易を通じて中国華南地域から輸入されたもので、北部九州からの註文品であろう。

その三は滑石製経筒である。北部九州に産出する加工しやすい滑石を材料にして、経筒や外筒を製作したものである。これにも塔形をかたどるものがみられる。

これら九州型経筒は、法華経宝塔品の内容ともかわる思想背景をもつもので、末法思想に依拠した経塚営造本来の意趣を忠実に伝える造形品であったといえよう。



第四号経塚構造実測図

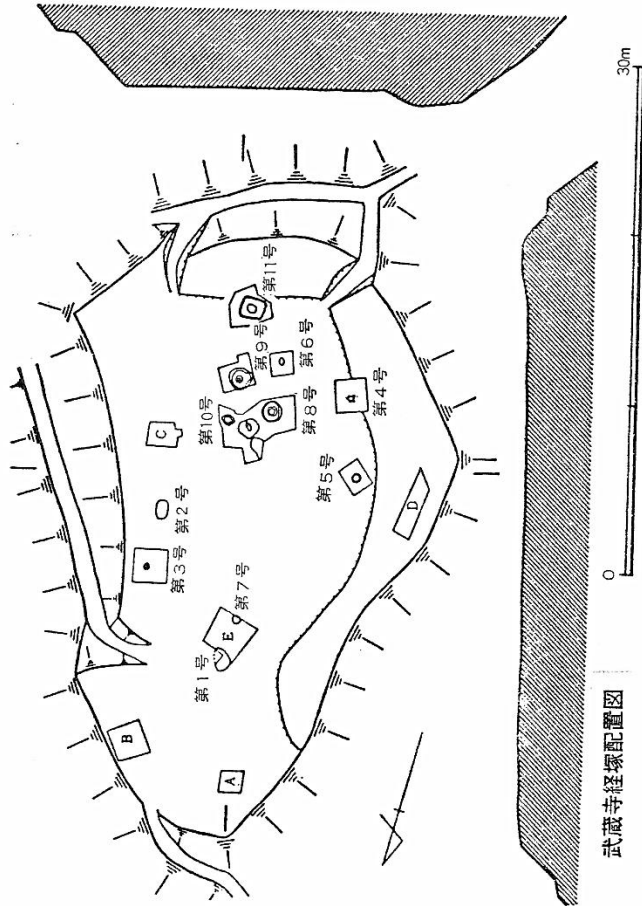
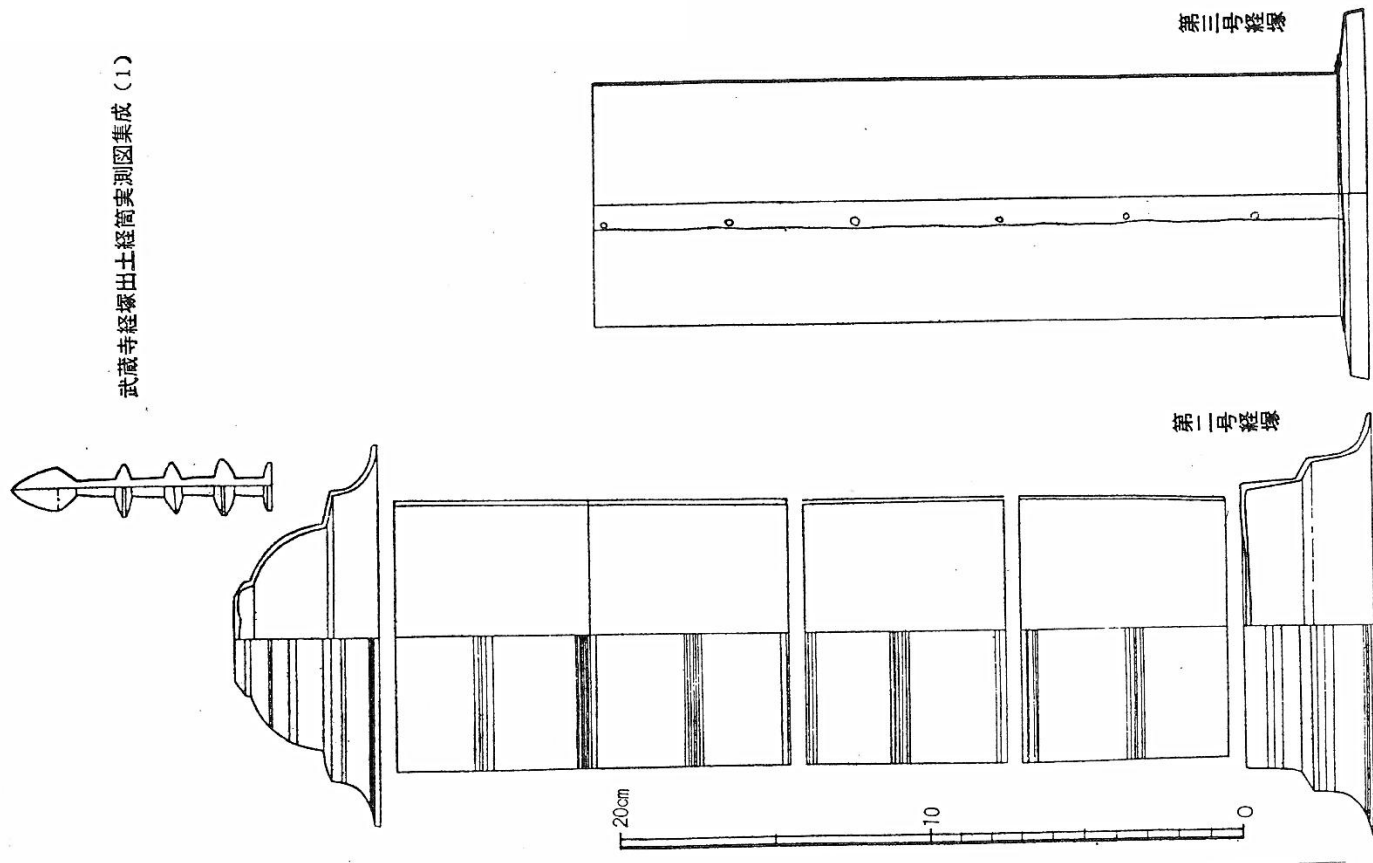


武蔵寺第四号経塚経筒出土状態

武蔵寺経塚2

武蔵寺経塚1 (筑紫野市)

武蔵寺経塚出土経筒実測図集成 (1)

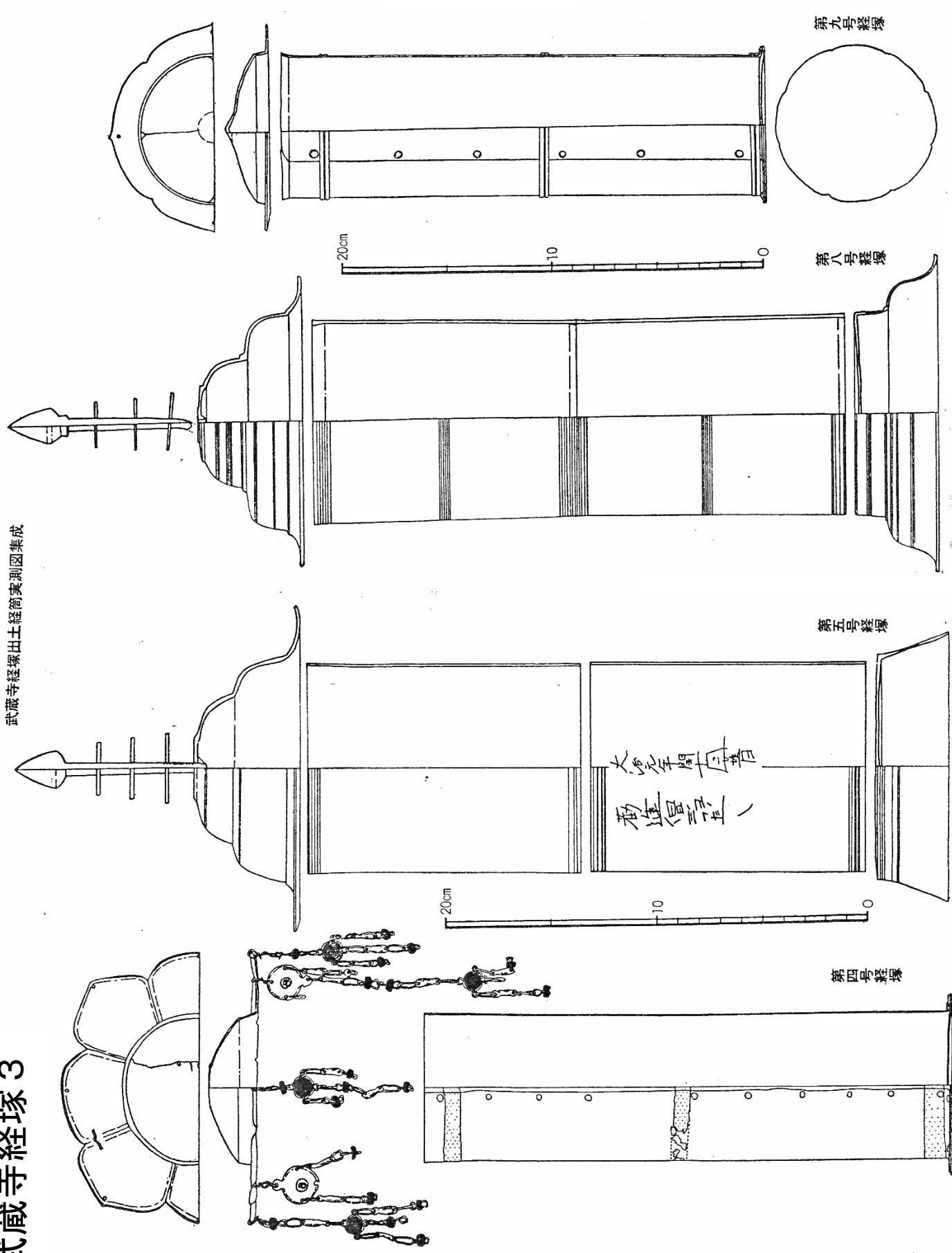


武蔵寺経塚配置図

経塚No.	経筒	伴出品	外容器	備考
第2号	铸铜四段横上式 相輪付蓋	経軸4本	—	調査前発掘
第3号	铜板円筒式 四葉形蓋瓿付	—	—	
第4号	铜板円筒式(金箔帶卷) 八葉形蓋瓿付	経卷10軸分残欠	須惠器花瓶形 (倒立破せ)	針書銘六行
第5号	铸铜二段横上式 相輪付蓋		須惠器瓿 (倒立破せ)	針書銘「大治元年…」 (1126)
第6号	?	?	?	盗掘
第7号	?	和鏡片1	?	盗掘
第8号	铸铜二段横上式 相輪付蓋	経軸5本	瓦器片口付針(蓋) 須惠器瓿	
第9号	铜板円筒式 四葉形蓋瓿付	—	白磁縮(蓋) 陶器花瓶形	
第10号	?	青白磁香合2(+) 銅鈴2	須惠器瓿	盗掘

武蔵寺経塚3

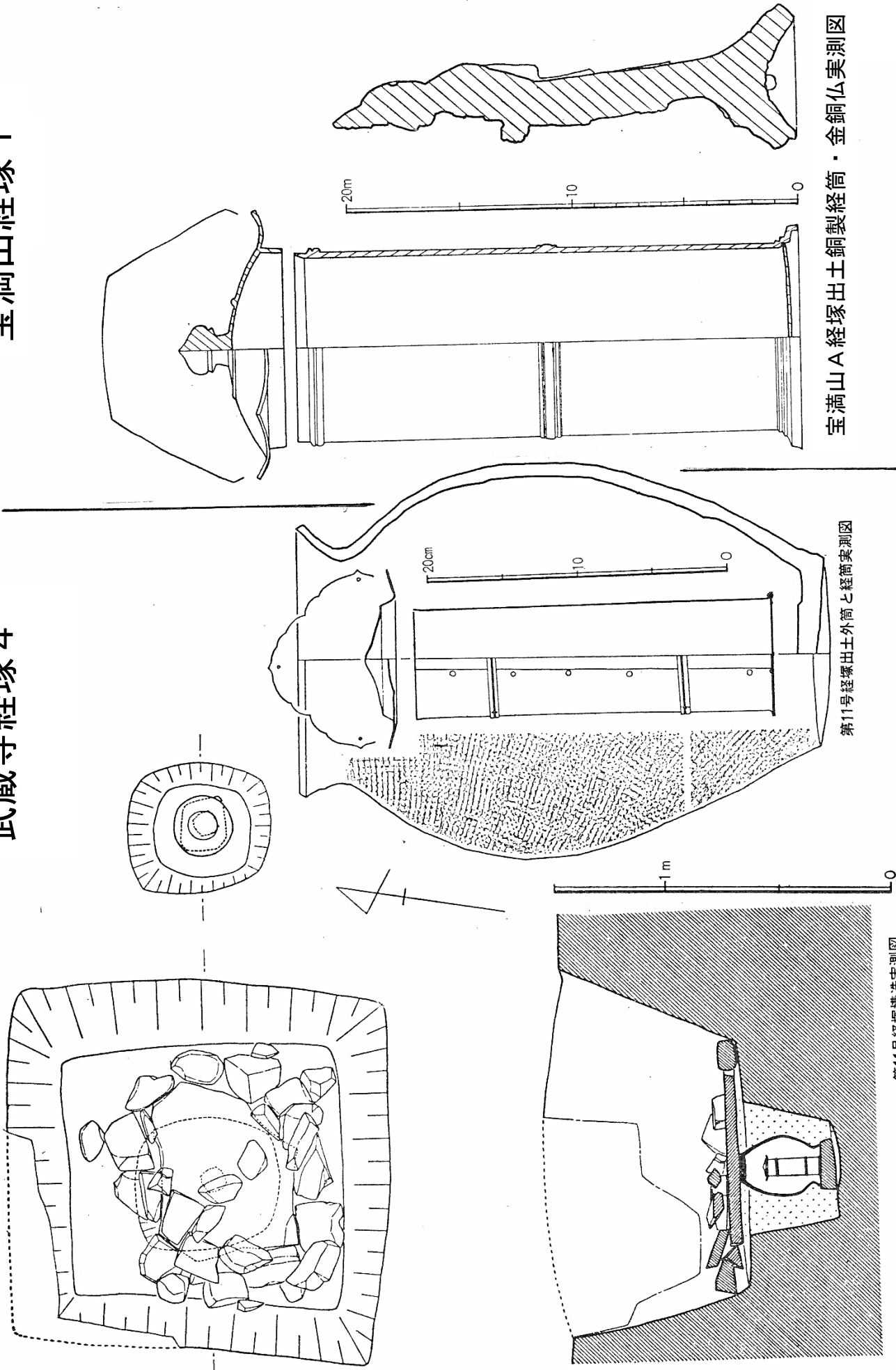
武蔵寺経塚出土経筒実測図集成



小田富士雄・宮小路賀宏『武蔵寺経塚』
一九七〇年（昭和四五）二月 武蔵寺史編纂会

武蔵寺経塚4

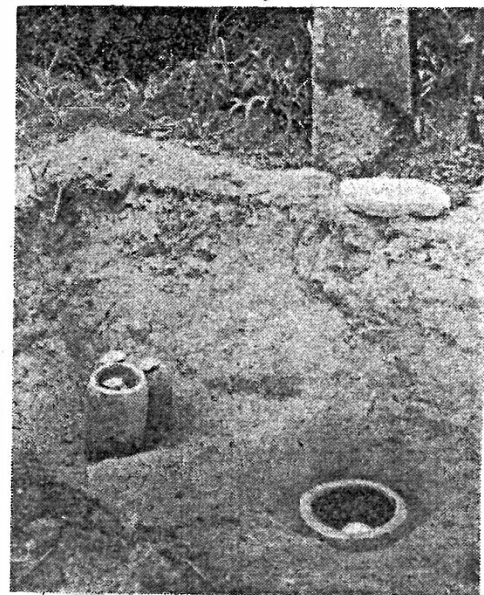
宝満山経塚1



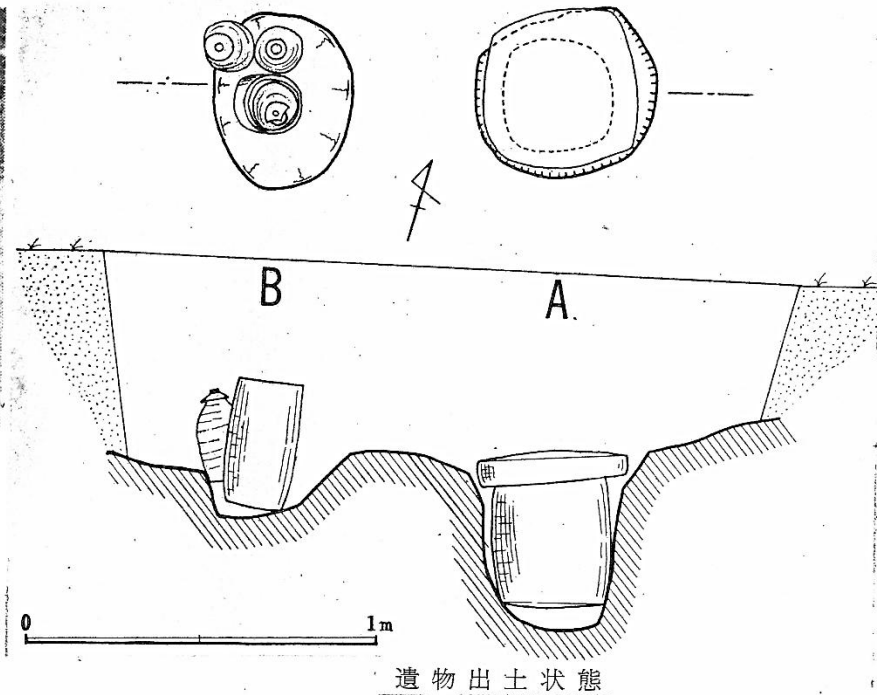
宝満山A経塚出土銅製経筒・金銅仏実測図

第11号経塚構造実測図

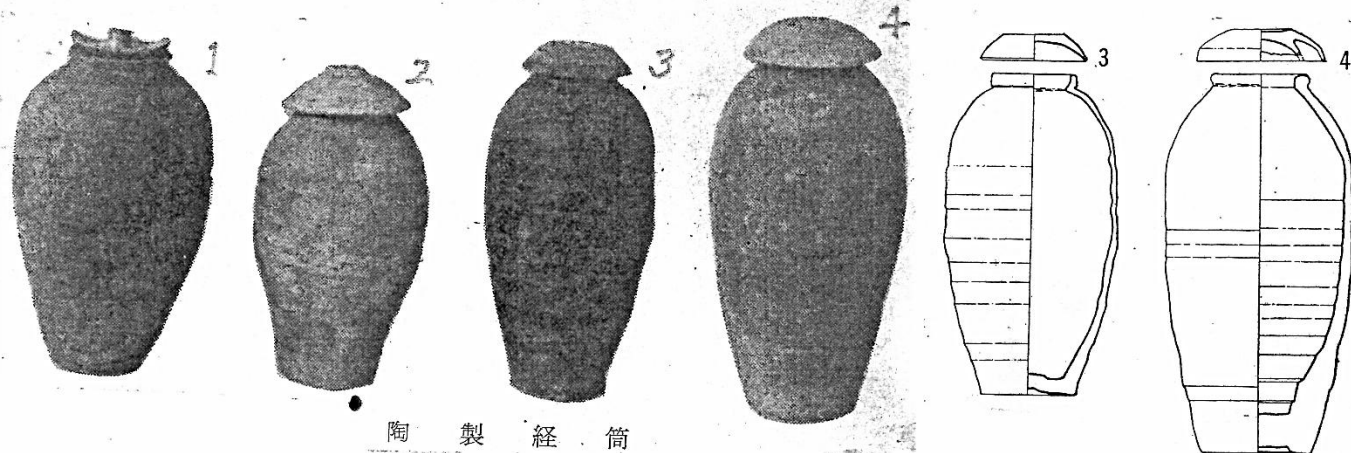
水瓶山経塚 1 (太宰府市)



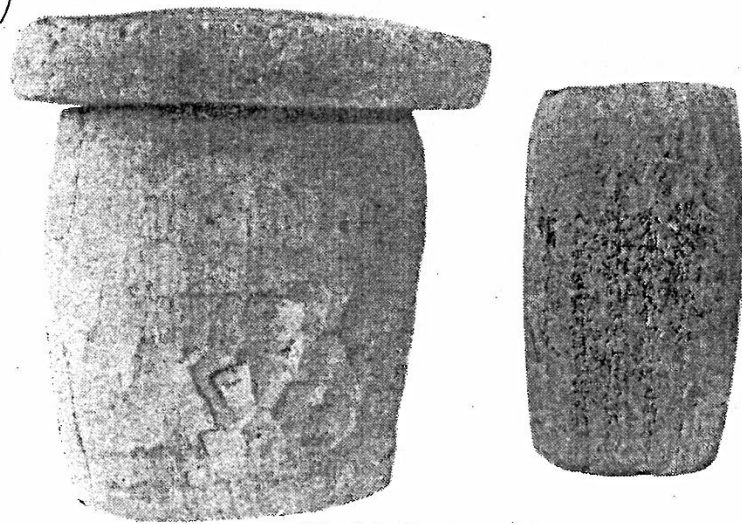
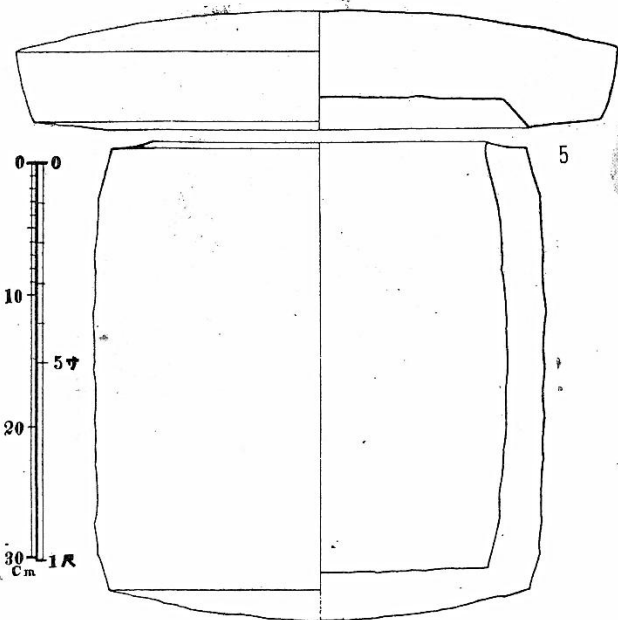
水瓶山経塚



遺物出土状態

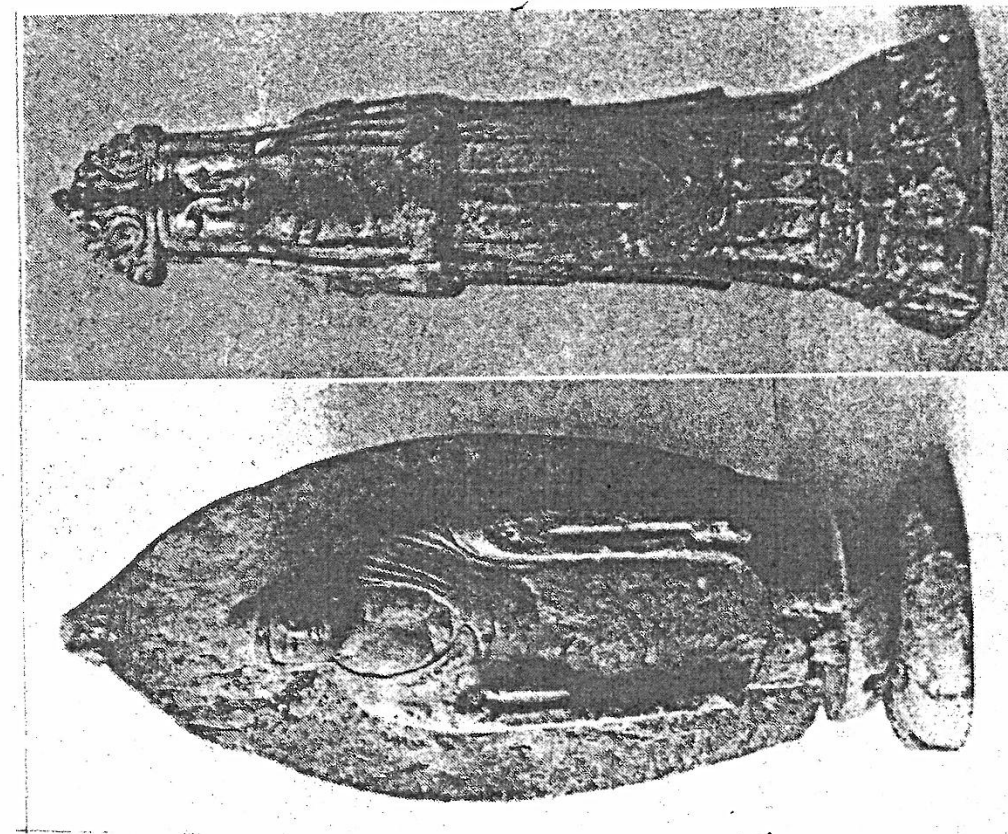


陶製経筒



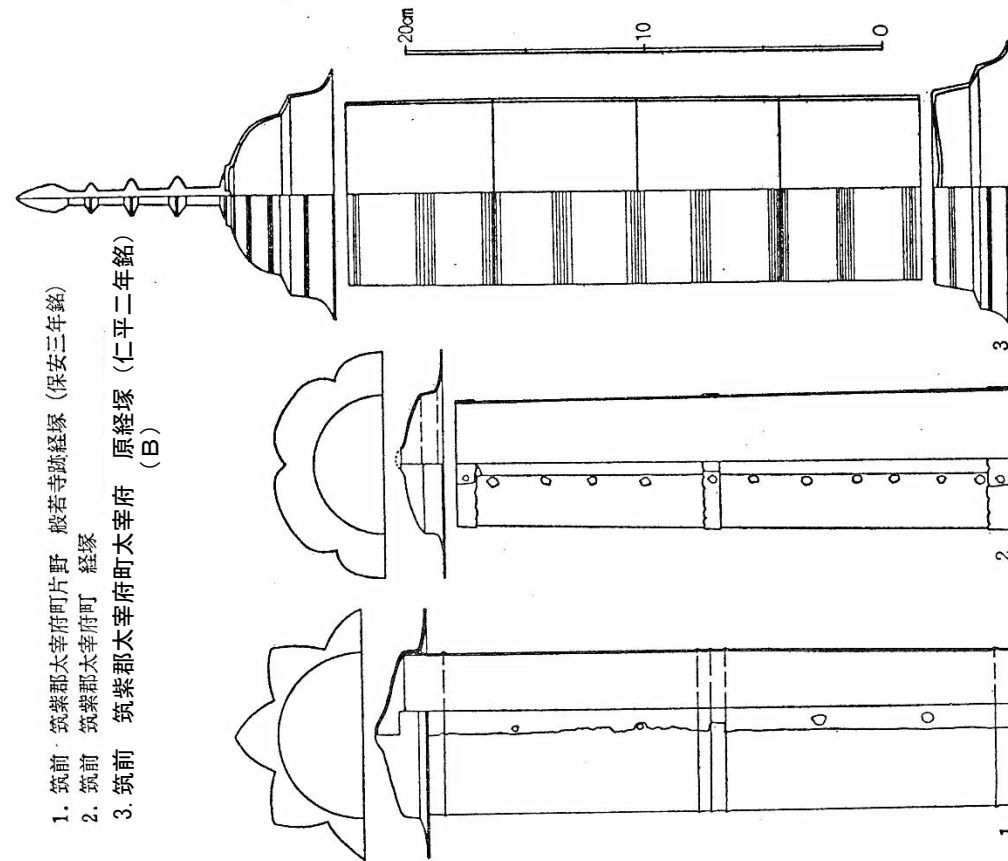
滑石製経筒及び外容器

筑前・太宰府町 経塚・仏像



副納仏像

右：福岡県宝満山A経塚・金銅製
左：福岡県四王寺山E号経塚・滑石製



1. 筑前 筑紫郡太宰府町片野 般若寺跡経塚 (保安三年銘)
2. 筑前 筑紫郡太宰府町 経塚
3. 筑前 筑紫郡太宰府町太宰府 原経塚 (仁平二年銘) (B)

九州発見の銅板製及び銅製積上式経筒参考例

水瓶山経塚 3

またこの応永銘には、周縁に二ヶ所の銘が刻まれているのが続くものと考えられる。左側周縁の「経泉」の左には

道□ 快嚴 快定 □

そして右の宝台をとりこして

定秀 良弘

右側周縁の「蓮防」の右には

□二 公恵 道□ □勾 快秀 良助 快嘉? 道伴 弁賀 良会 長賀

以上が応永廿三(一四一六)年のものと考えられる。

(四) 長享三酉歳七月卅日 開

長享三(一四八九)年は八月二十一日に延徳と改元され、干支も己酉である。已となったのは鑿がすべった為であろう。以上の他解説できても年代を知り得ない刻銘を整理しておく。

まず周縁以内において

良俊? 良□ 良嚴

及び長享三年以下の銘と複合して

慶寿

周縁においては、「経泉」銘より時計の針と同じ方向に拾いあげると、

良朝、饒順、良伴、祝賀、満永、良□、快秀、良嚴、良守、良□、□賀、快賀、□重、常賀、と合計一八名の僧侶名が年代不明である。

全体で解説できないものが四九字以上である。僧侶の名及びそれと解するものが七五名の大勢にのぼる。

僧侶名には「良・賀・快」の付くものが多く、良一七、賀九、快六字の順になる。

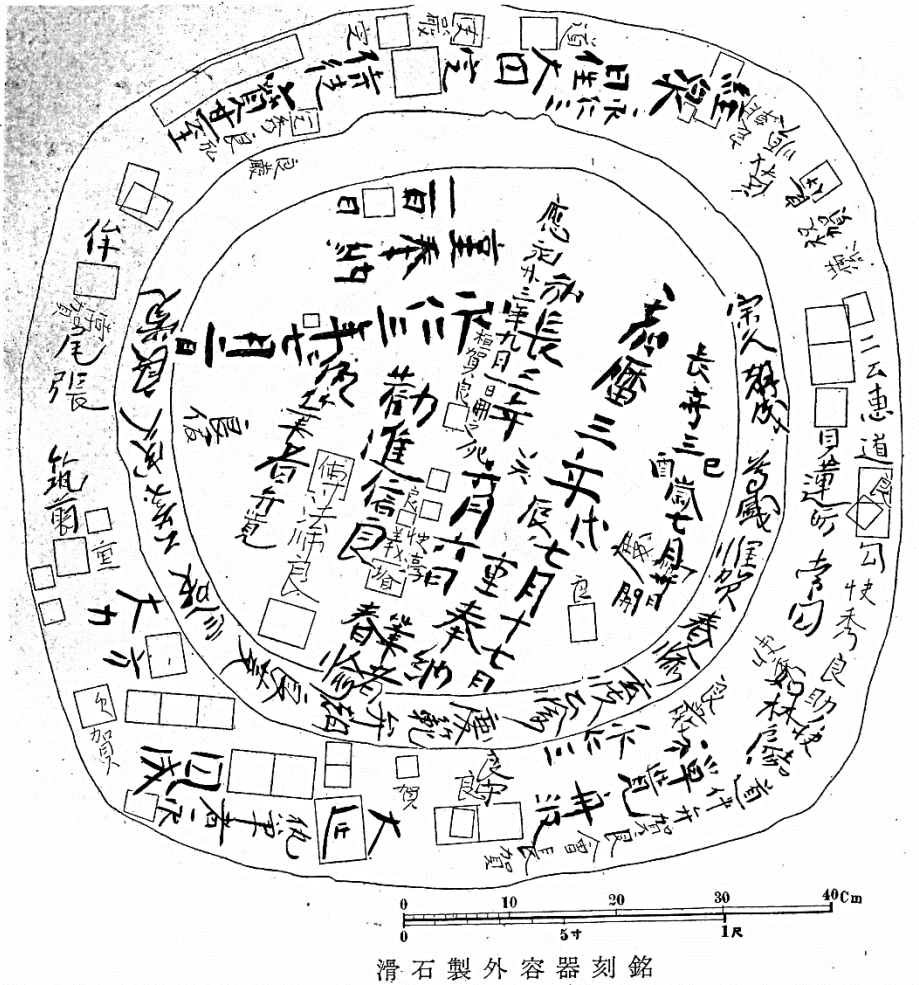
2、B地点出土の滑石製容器(第5図6、第8図)は、形式、法量ともに極一般的なものである。

この滑石製容器と前述の外容器の石質はやや異ったもので、前述の外容器の石質は黄白色をしているのに対し、この滑石製容器は銀灰色をしている。

水瓶山経塚 2

筒身の高さ三五・六糎、口縁内径約二七糎、刳込みの深さ三二・七糎、刳込み底径約一三糎と容積も大なるものである。外面全体に鱗状に鑿あとが残っている。

蓋は被蓋で高さ九糎、外径約四五糎の扁平なものである。蓋の表裏には銘文が刻まれているが、表側は磨滅が甚しく解説不可能である。裏側には、弘長三



(一) 二六三) 年以下長享三(一四八九)年までの紀年銘と僧侶の名が刻まれている(第9図)。

次に、紀年銘及びそれに附随すると思われる僧侶の名等を時代順に記す。

(イ) 弘長三年癸六月六日 勸進信良 執筆者弁賀

(ロ) 永仁三年乙七月二日

全面に鱗状の鑿あとを残している。刳込内部は乱雑にほられ、断面に三段に段を残すほどである。刳込みの深さ二七・三糎、口縁内径一三糎、高さ三四・九糎を数える。蓋は発されなかった。この滑石製容器は、刳込み内の径と深さを考えるに外容器としては容積が小さく経筒と考えるべきであろう。

筒身を廻って次の銘文が彫られている。

弘長三年歲次癸亥六月初四日 奉納如法経於岡見辻之時掘出 此滑石筒翌年六月初八日奉入新写経於此筒裏埋直同処 石筒雖存納経朽失不注年紀 不知時代□為後世注如法経 衆交名如後

文永改元申子六月初八日 僧聖盛 □覺 尊喜 宗円 増因 堯真 宗聖 良基 盛慧 良慶 執筆入宋比丘永宝 雕石比丘永印

此石宮音

以上であるが、「此石宮音」なる銘文は書体が他の銘文とは異なる。意味・時代共に不明である。

以上の銘文により次の様なことを知る。

イ、弘長三年六月四日岡見辻(岡見山)に経塚造営が行われた事

ロ、経塚造営の時に、以前営まれた経塚を発見した事

ハ、発見した経塚に、翌年の文永元年再び如法経を奉納した事

重奉納 二日□日

永仁三(一二九五)年の干支は乙未である。この刻銘に続くものは、その左右の口縁部に「永仁三」をもって表記されている。

その左側は

永仁三

経泉 日住 大円 定□ 侍徒 宝台 伴□ 尾張 筑前

右側は

永仁三

禪覺 舟汲? □□ 大延? 一行左に移り □□ 円成

これに並んで右側に 執筆者永□ と続く一群の銘が永仁三年のものである。

イ 嘉暦三年戊七月十七日 重奉納

筆者 春倫

これは右側の「宗久」に続くもので、春倫の銘により解る。

宗久 朝成 為盛 惟賀 春倫 玄岐 公愉

慶範 弁朝 良慶 定賀 公慶? 成久 良覚

さらに右に続き

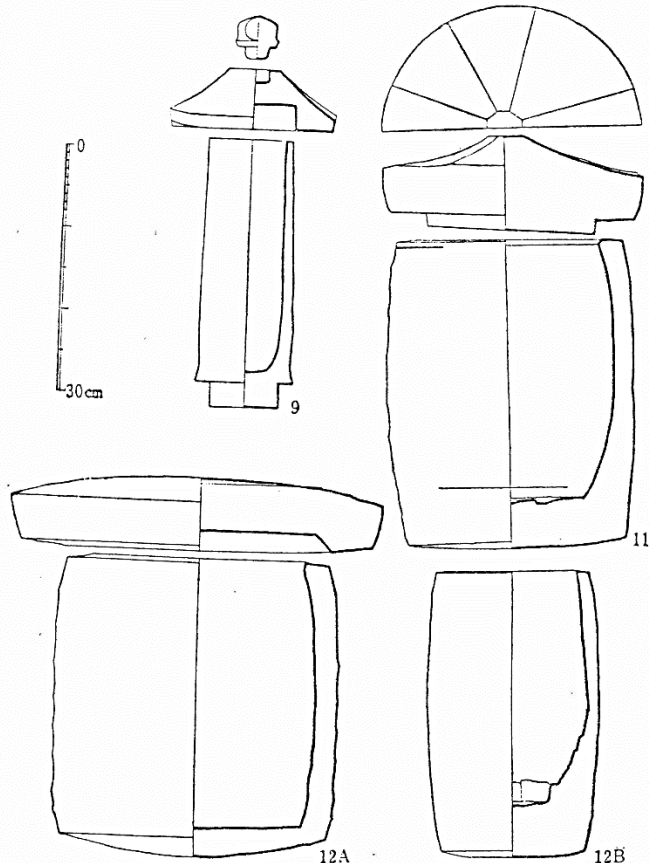
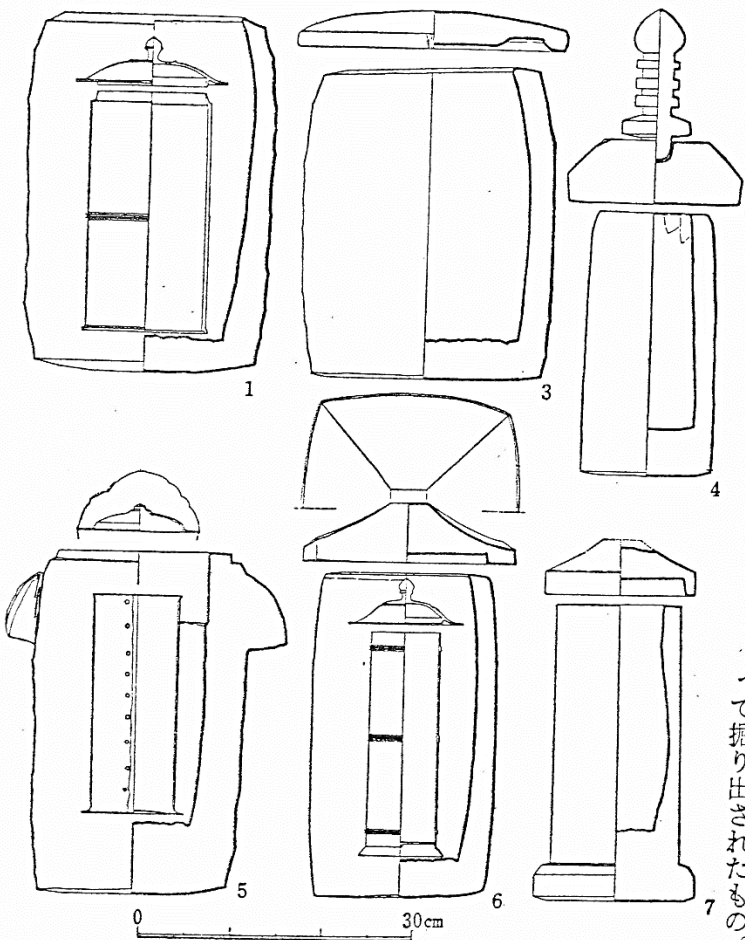
□□ □見 蓮防 常勾 如林房

以上が嘉暦三(一三二八)年の刻銘と考えられる。

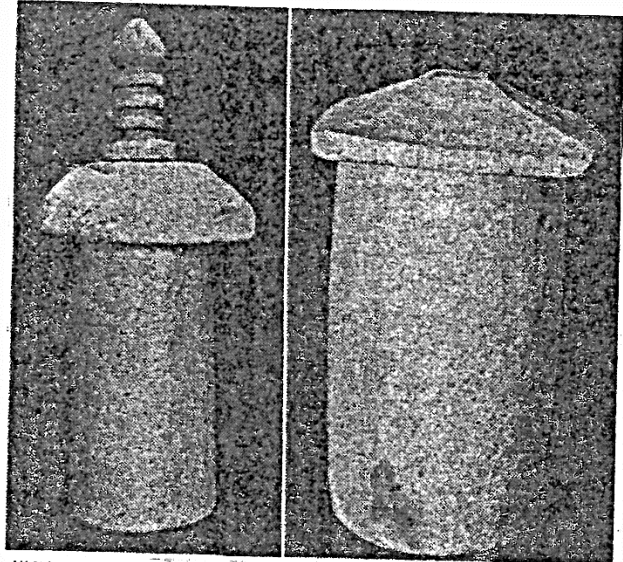
(二) 応永廿三年九月一日開之

桓賀 良澄? □□ 快淳 良□ 義□ 伝? 法師良□

石製経筒



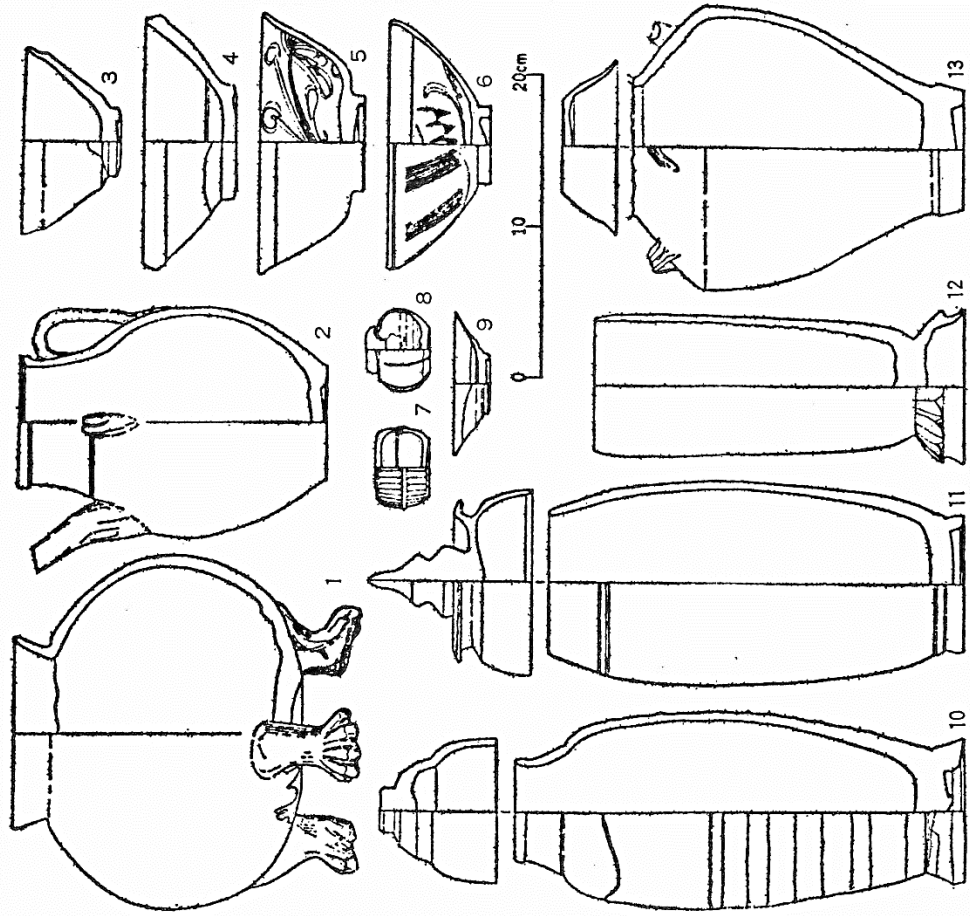
石製経筒実測図



塔形滑石経筒二種 (左は天永三年, 右は大治五年)

- の値遇を得んとする思想に拠ったものが多いことはすでに説かれているところであるが、本稿であつかった营造年代の知られる石筒について意趣を検討してみると、
- (1) 嘉保三年 法華如法経を書写し供養する。
 - (2) 永長三年 死亡(?)僧三名の供養のため。
 - (3) 承徳三年 本願主が如法妙法蓮華経二部の供養を發起したが、死亡後完成したのでその子五名をはじめ結縁衆がその遺志を果すため。
 - (4) 天永三年 如法経を経題に従って書写し、現世安穩後生菩提を願う。
 - (5) 天永四年 妙法蓮華経八巻及び開結二巻を書写し、ひたすら弥勒の値遇を得んことを願う。
 - (6) 大治五年 三季間にわたってひたすら仏道に帰依し、法華経一部八巻を書写し供養する。
 - (7) 久安元年 弥勒如来の出世に際して供養を行うもの。
 - (8) 仁平三年 前年より一箇年にわたって精進して妙法蓮華経一部八巻を書写して仏に結縁せんとするもの。
 - (9) 仁平四年 妙法蓮華経一部八巻を書写して現世安穩後生菩提を願う。
 - (10) 弘長三年 同年発掘された経筒に再び如法経を書写して埋納し、後、雨乞行事の具に転じて現代まで再三にわたって掘り出されたもの。
- 弥勒出世の時に慈尊

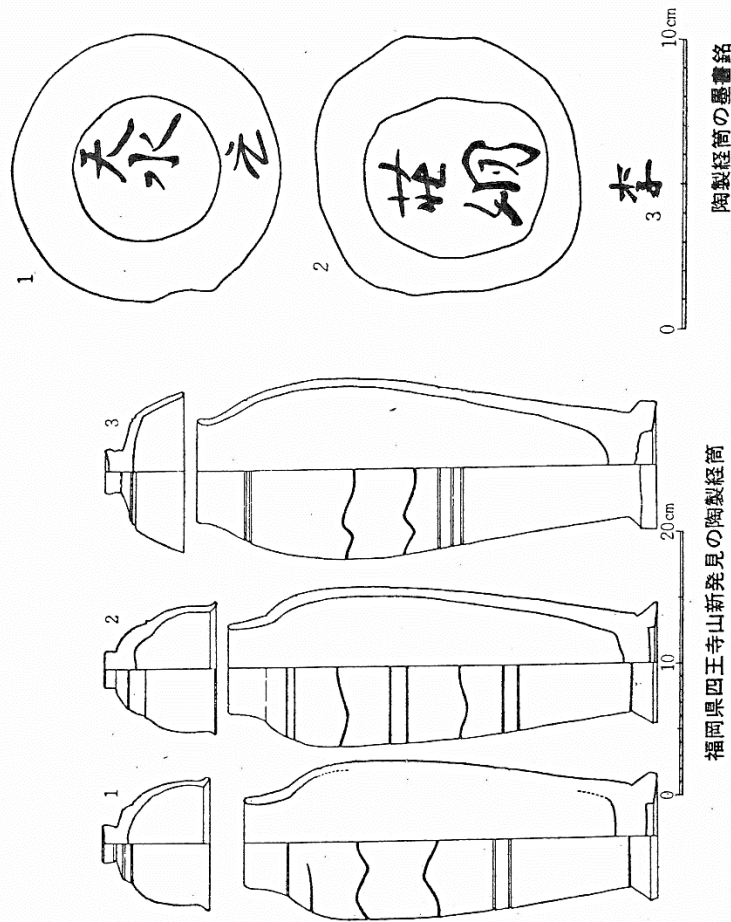
中国輸入陶瓷各種



中国輸入陶瓷の各種実測図

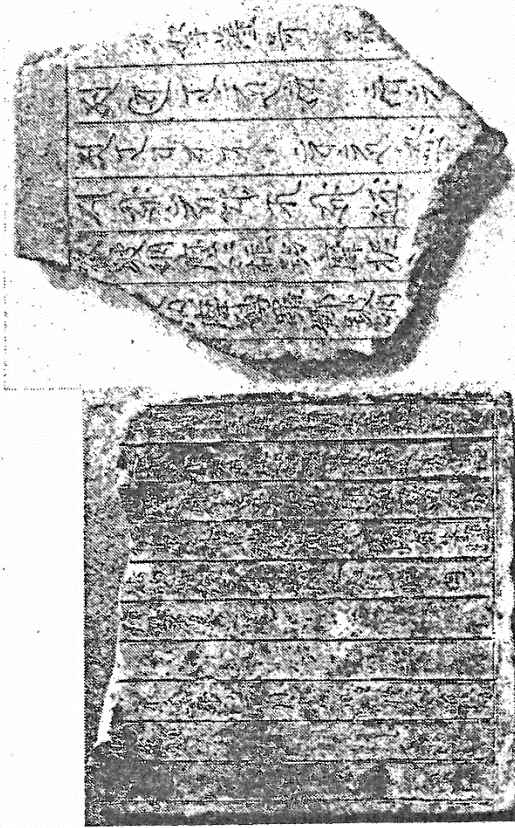
- 1 越州窯青瓷鉢 (唐)・福岡県太宰府市立明寺
- 2 越州窯青瓷水注 (五代)・福岡県福岡市聖福寺境内
- 3 建業天目鉢 (宋)・福岡県山門郡瀬高町坂田
- 4 白瓷鉢 (宋)・福岡県八女郡広川町堂ノ平経塚
- 5 龍泉窯青瓷鉢 (宋)・山口県防府市関防国府跡
- 6 珠光青瓷鉢 (宋)・山口県防府市関防国府跡
- 7 青白瓷合子 (宋)・佐賀県武雄市朝日町牛ノ谷経塚
- 8 青白瓷小壺 (宋)・福岡県宗像郡宗像町山田経塚
- 9 白瓷皿 (宋)・福岡県八女郡広川町堂ノ平経塚
- 10 陶製経筒 (宋)・福岡県福岡市西油山経塚
- 11 陶製経筒 (宋)・福岡県太宰府市四王寺山経塚 (越州窯・重要文化財指定)
- 12 青白瓷経筒 (宋)・福岡県福岡市西油山経塚
- 13 青白瓷藏骨器 (宋)・福岡県太宰府市供岳

陶製経筒・瓦経



福岡県四王寺山新発見の陶製経筒

陶製経筒の墨書銘



福岡県龍蔵山 左は永久二年銘、右は梵文銘。

石田茂作 「経塚』『続経塚』（考古学講座）雄山閣 一九二六、二八年

「滑石経に就いて」

『考古学雑誌』一七卷五号）日本考古学協会 一九二七年

「瓦経の研究」

『瀬戸内考古学』二号）瀬戸内考古学会 一九五八年

「築造時代の明かなる経塚」

（『福岡県史蹟名勝天然紀念物調査報告書』第二輯） 一九二六年

「四王寺の来歴と遺物の発見」

『史蹟名勝天然紀念物』一集（一号） 一九二七年

「筑前に於ける経塚及び経筒に就て」

『筑紫史談』五七集）筑紫史談会 一九三年

川上市太郎

「昭和七年発見四王寺経筒と四王瓦」

（『福岡県史蹟名勝天然紀念物調査報告書』第八輯） 一九三年

蔵田 蔵

「経塚論―九州地方出土の経塚遺物」上・下

『MUSEUM』一八一・一八三 一九六六年

鏡山 猛

「大宰府地域の経筒について」

（『菅原道真と太宰府天満宮』下巻）吉川弘文館 一九七五年

宮小路賀宏

「大宰府周辺の経筒」

（『西日本文化』六〇号）西日本文化協会 一九七〇年

宮小路賀宏・杉山洋 「九州経塚分布地名表」

（『月刊考古学ジャーナル』五三号） ニューサイエンス社 一九七八年

杉山 洋

「大宰府の経塚」

（『大宰府の歴史』四） 西日本新聞社 一九八五年

「四王寺経塚―村上経塚出土遺物の紹介」

（『MUSEUM』一四三号） 一九八五年

関口広次 『中国・韓瓶の研究』六一書房 二〇三年

小田富士雄編 『宝満山の地王―宝満山の遺跡と遺物』

太宰府天満宮文化研究所 一九八二年

小田富士雄 「九州経塚資料拾遺1」

（『古文化談叢』一六集）九州古文化研究会 一九八六年

「九州における経塚とその背景」

（『肥前築山瓦経塚』大和町教育委員会 一九九四年

九州発見の陶製経筒）・「西日本の石製経筒）・「九州の経塚」

（『九州考古学研究・歴史時代篇』学生社 一九七七年

「筑前・武蔵寺経塚の調査」・「筑前・宝満山経塚」・「出光美術

館所蔵の九州発見経筒」

（『九州考古学研究・歴史時代各論篇』学生社 一九八八年

「九州における経塚・経筒研究―研究史と課題」

（『古代九州と東アジア・拾遺篇』九州古文化研究会 二〇二年

九州地方発見紀年銘ある経塚年表

(一九八五年一〇月現在) 作成・小田富士雄

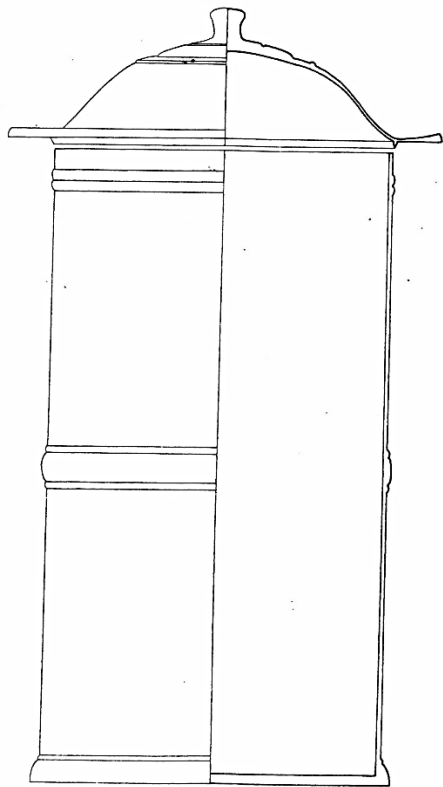
紀年月日	西紀	出 土 地 (數量)	記銘拠所
治曆2・2	一〇六六	佐賀県 岩倉山	銅経筒
延久3	一〇七一	長崎県老岐郡郷ノ浦町 鉢形嶺	滑石製如来坐像
承暦3・1・27	一〇七九	福岡市東区香椎 香椎宮境内	銅経筒
永保1・12・23	一〇八一	熊本県上益城郡御船町瀧尾五七二五番地	〃
〃3・9・22	一〇八三	大分県速見郡山香町立石字向野 津波戸山	〃
寛治1・11・22	一〇八七	福岡県北九州市小倉南区中谷字山本	〃
〃3	一〇八九	福岡県朝倉郡三輪町栗田 弘誓寺	〃
〃6・5・23	一〇九二	福岡県糸島郡 雷山	〃
〃8・2・2	一〇九四	福岡県筑紫野市武蔵 武蔵寺境内	〃
嘉保3・8・27	一〇九六	佐賀県杵島郡大町町谷口字仏法堤	〃
永長3・2・18	一〇九八	福岡県太宰府市片野 般若寺跡	滑石外筒
承得(徳)3・9・28	一〇九九	福岡市西区 西油山	銅経筒
康和3・10・22	一一〇一	福岡県内(豊前地方)	〃
〃4・11・9	一一〇二	大分県下毛郡三光村山口大字田口字山ノ下	〃
〃5・10・20	一一〇三	福岡県筑紫野市武蔵 武蔵寺境内	〃
〃5・10・20	一一〇三	〃	〃
〃5・10・20	一一〇三	〃	〃
長治1・11・23	一一〇四	大分市政所(旧北海部郡大西村)	〃
〃2・10	一一〇五	鹿児島県曾於郡大隅町月野字下岡	〃
〃3・4・20	一一〇六	福岡県太宰府市坂本(四王寺山)	〃
天仁1・11・23	一一〇八	大分県宇佐郡安心院町鳥越	〃
天永1・10・14	一一一〇	福岡県行橋市勝山町大久保(光円寺)	〃
〃1・12・7	一一一〇	福岡県直方市永満寺 宅間	〃
〃1	一一一〇	福岡県太宰府市観世音寺(四王寺山)	〃
〃3・2・13	一一一二	福岡市西区 油山	陶経筒(墨書)
〃3・5	一一一二	佐賀県神埼郡東脊振村 毘沙門堂付近	滑石経筒
〃3・9・7	一一一二	福岡県浮羽郡田主丸町水縄字石垣(観音寺)	墨書紙本経(卷首)
〃4・11・16	一一二三	佐賀県東松浦郡相知町大野 セセリ谷	〃(奥書)
永久1・11・5	一一二三	福岡県直方市永満寺 宅間	銅経筒
〃1・11・8	一一二三	福岡県粕屋郡古賀町鹿部八八番地	〃
〃1・11・27	一一二三	福岡県田川郡添田町 英彦山南岳山頂	〃
〃2・4・24	一一四	福岡市西区 飯盛山山頂	經 瓦
〃2・10・19	一一四	福岡市西区 飯盛山山頂	〃
〃2・11・2	一一四	福岡県太宰府市太宰府(四王寺山)	銅経筒
〃3・1・6	一一五	福岡県直方市永満寺 宅間	〃
〃3・4・18	一一五	大分県大野郡緒方町大字上自在(三宮八幡社)	銅板経
〃3・5・28	一一五	福岡県京都郡勝山町菩提 菩提院?	銅経筒
〃4・2・5	一一六	福岡県浮羽郡田主丸町水縄字石垣(観音寺)	銅板経筒
〃4・2・21	一一六	福岡県粕屋郡宇美町 四王寺山	銅宝塔経筒

紀年月日	西紀	出土地	記銘拠所
〃 4	一一一六	伝福岡県内	銅経筒
〃 6・2・18	一一一八	福岡県北九州市小倉南区蒲生字ハリヤ	銅経筒
〃 6・2・18	一一一八	福岡県北九州市小倉南区守恒字金山谷・前ペラ山	〃
元永 1・1・16	一一一八	福岡県柏屋郡古賀町米多比	陶経筒
〃 1・10・5	一一一八	大分県下毛郡三光村山口大字田口字山ノ下	銅経筒
〃 1・10・27	一一一八	福岡県柏屋郡宇美町 四王寺山	〃
〃 2・9・21	一一一九	福岡県鞍手郡宮田町平山	〃
〃 2・9・24	一一一九	福岡県柏屋郡宇美町 四王寺山	〃
〃 2・11・9	一一一九	宮崎市大島(大島神社)	〃
保安 1・8・25	一一二〇	福岡市西区 西油山	〃
〃 1・8・28	一一二〇	福岡県糸島郡旧怡土村	〃
〃 1・10・5	一一二〇	大分県下毛郡三光村山口大字田口字山ノ下	〃
〃 3・10・23	一一二二	伝福岡県内	瓦製経筒
〃 3・11・28	一一二三	福岡県太宰府市片野 般若寺跡	銅経筒
〃 4・2・27	一一二三	福岡県嘉穂郡碓井町字平山	〃
〃 4・3・17	一一二三	福岡県柏屋郡宇美町 四王寺山	〃
天治 1・10・1	一一二四	佐賀県多久市多久町山崎八〇一六番地	〃
〃 2・6・7	一一二五	福岡県内	〃
〃 2・6・7	一一二五	福岡県柏屋郡須恵町佐谷字観音谷	〃
〃 2・6・7	一一二五	福岡県築上郡築城町丸山	墨書紙本経(奥書)
〃 3	一一二六	福岡県柏屋郡須恵町	銅経筒
大治 1・10・29	一一二六	福岡県甘木市檜原	紙本経
〃 1・閏10・20	一一二六	大分県大野郡緒方町大字大化(大行事八幡社)	銅経筒
〃 1・閏10・25	一一二六	福岡県筑紫野市武蔵 武蔵寺境内	〃
〃 2・9・19	一一二七	福岡県京都郡勝山町大字松田字大畝田一八〇八番地	〃
〃 2・10・15	一一二七	福岡県行橋市長井	銅六角経筒
〃 2	一一二七	伝福岡県内	銅経筒
〃 3	一一二八	大分県大野郡緒方町大字大化(大行事八幡社)	〃
〃 4・10・27	一一二九	福岡県宗像市赤間	〃
〃 5・10・15	一一三〇	伝福岡県内	金銅経筒
〃 5・10・15	一一三〇	福岡県宗像市山田一八一〇の一番地	銅経筒
長承 2・8・29	一一三三	伝福岡県宗像市山田一八一〇の一番地	〃
保延 2・10・21	一一三六	福岡県宗像市山田一八一〇の一番地	〃
〃 4・10・20	一一三八	福岡市西区今宿	〃
〃 5・10・28	一一三八	福岡県宗像郡玄海町吉田(鎮国寺)	〃
〃 6・4・5	一一三九	福岡県中間市中間 八王寺社	〃
〃 6・8・30	一一四〇	伝大分県内	〃
〃 6・8・30	一一四〇	伝大分県内	〃
〃 6・10・22	一一四〇	伝大分県内(二本)	〃
〃 7・2・15	一一四一	福岡県豊前市 求菩提山(四本)	〃
〃 7・8・2	一一四一	伝福岡県内	銅板経
〃 7・8・2	一一四一	大分県豊後高田市加礼川 富貴寺(長安寺ノ誤)	〃

承曆三年銘經筒（香椎宮）

銘文

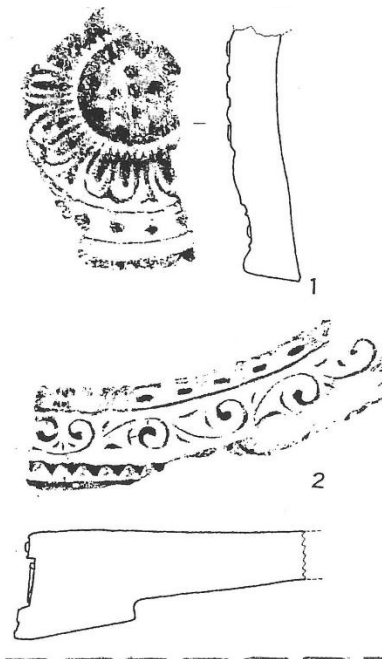
「爾前諸說非佛本懷
如法書寫蓮華時開
真實妙心登蓮臺
此弟子新以勤行
有爲沙界無邊衆生
今依願（マメ）僉證三明
承曆三年歲次己未正月
廿七日香椎宮惣大檢校
僧遍祐奉供養弟
子酒井氏橘成定僉
證三明



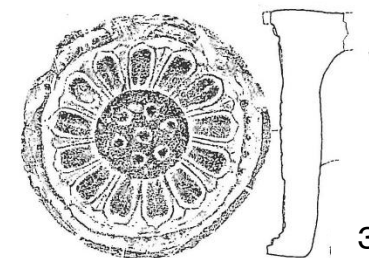
通高 33.4センチ
筒身経 15.0センチ

承暦二年銘経筒実測図 1/4 福岡市東区 香椎宮

下宮礎石群出土

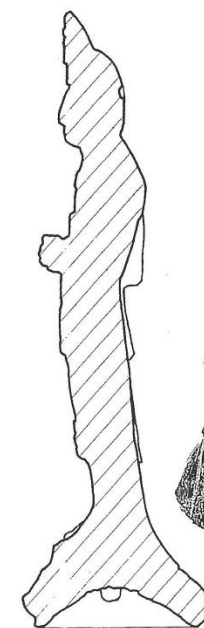
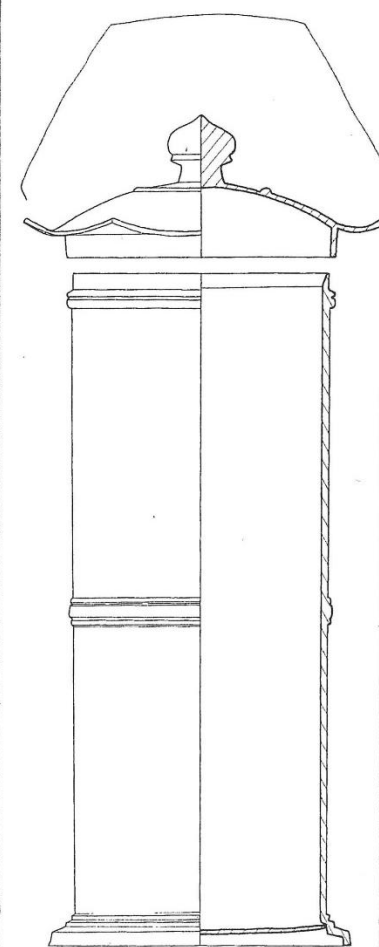


宝塔跡周辺出土



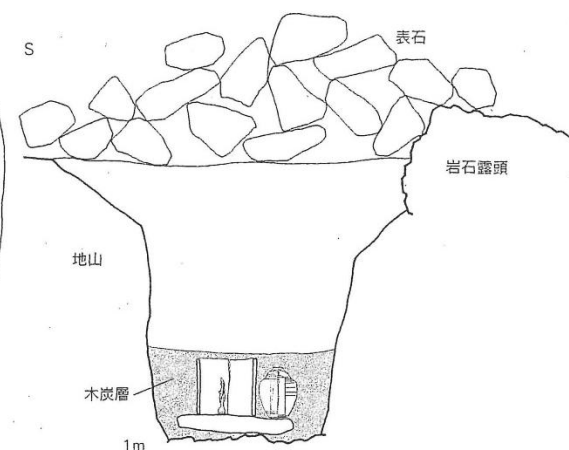
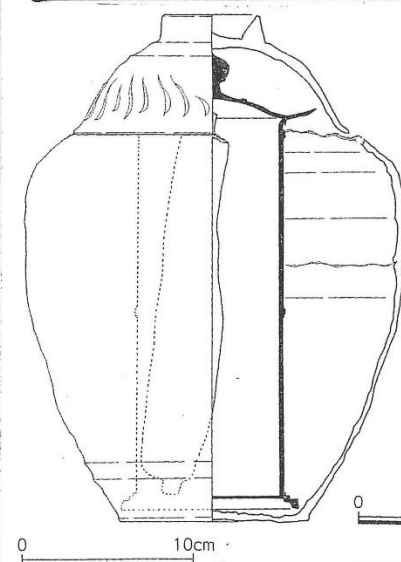
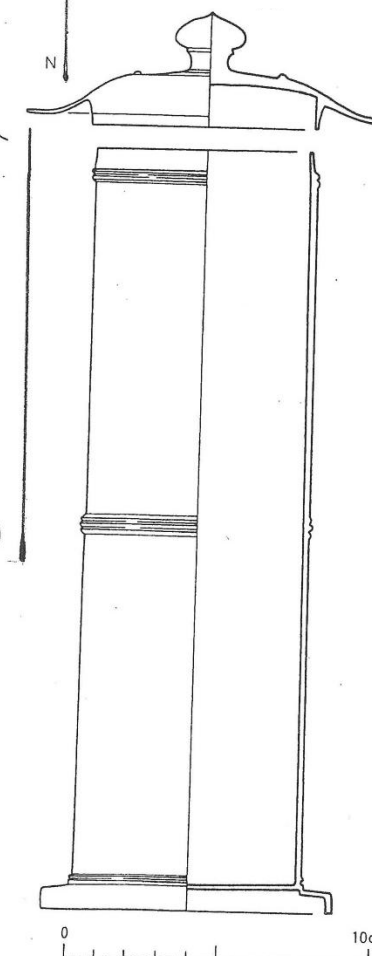
宝満山経塚 2

A 経塚



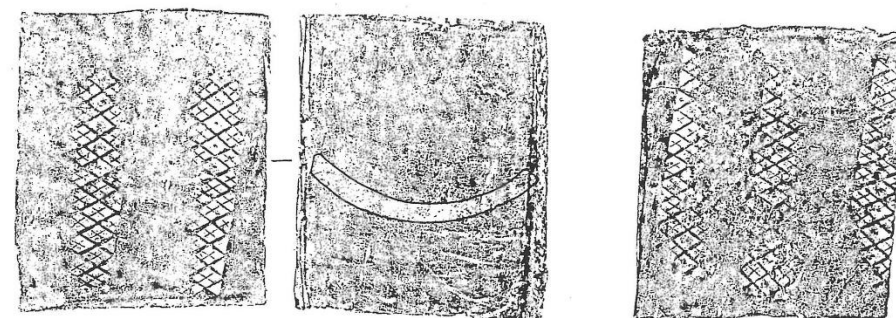
(総高 20.6 cm)

B 経塚



宝満A経塚埋置状況復原想定図 (1/4, 1/50)

B 経筒を囲んでいた平瓦



0 10 20 30cm

0 10 20 30cm